

# かほだより

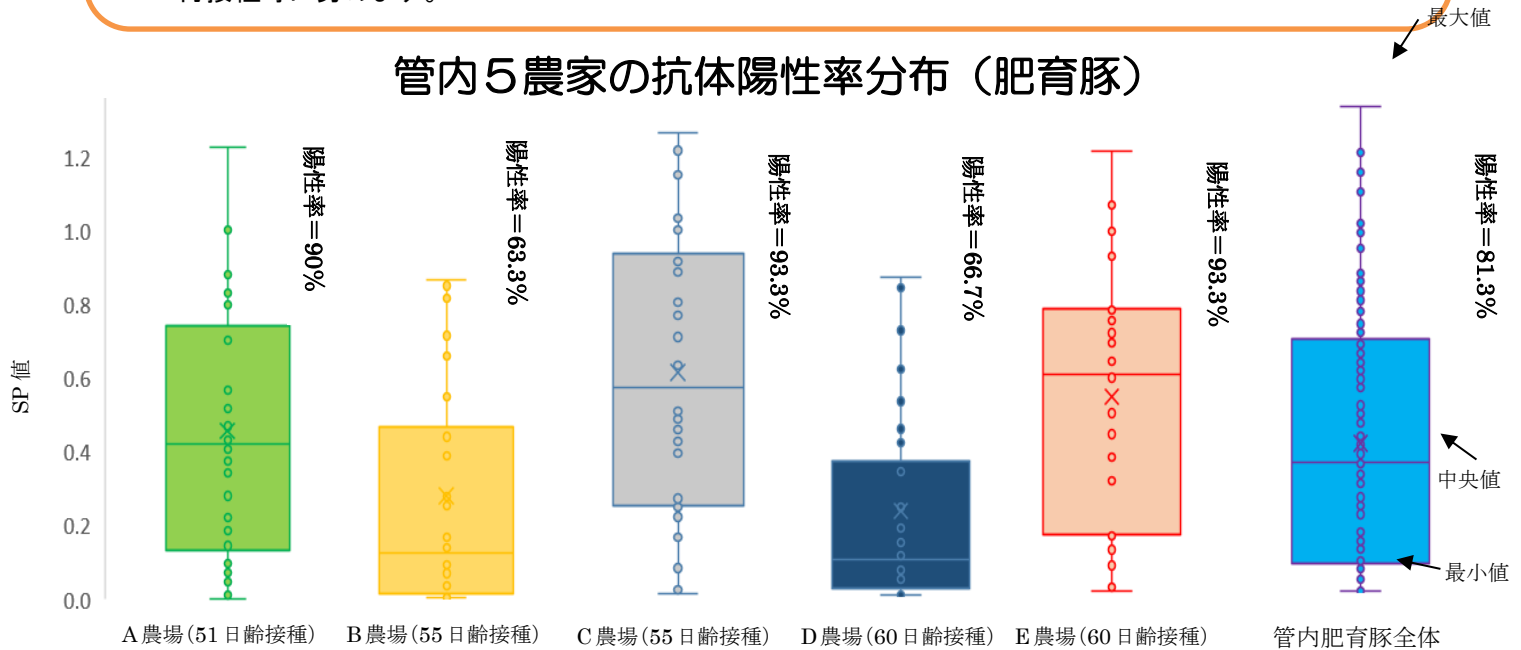


## やっぱり豚熱ウイルスの畜舎内侵入阻止が最後の砦！

令和3年4月以降だけでも5県（8事例）のワクチン接種農場で豚熱が発生しています。ワクチン接種が始まって約2年、抗体付与状況を確認しながらワクチン接種適期の見直しをしてきましたが、どこの農場でも感染防御が出来ない豚が一定数存在することが憂慮されます。

- 抗体付与率80%以上(肥育豚と畜時の抗体付与状況)・・・A、C、E農場  
ワクチン接種前後の子豚の多数と、肥育豚の～20%が感染防御が出来ない可能性があります。
- 抗体付与率80%未満(肥育豚と畜時の抗体付与状況)・・・B、D農場  
ワクチン接種前後の子豚の多数と、40%近くの肥育豚が感染防御出来ない可能性があります。  
※B、D農場につきましては、引き続き衛生管理を徹底するとともに、随時抗体付与状況を調査し、ワクチンの再接種等に努めます。

### 管内5農家の抗体陽性率分布（肥育豚）



※ELISA検査においてSP値が0.05以上だったものを陽性としています

#### 当面のお願い

ワクチンだけでは防御出来ないため、飼養衛生管理基準の遵守をお願いするとともに、次の衛生対策の徹底をお願いします。

- 農場周辺のウイルスが雨水とともに農場敷地内に流入する可能性があります。雨が降ったら畜舎周辺への石灰散布を検討して下さい。
- 肥育豚の中には発症しない感染豚が存在する可能性は否定できません。肥育豚の管理とワクチン接種前の豚の管理が交差しないようにお願いします。

これからの季節は気温の低下とともに消毒薬の効果も低下します。消毒薬の希釈濃度、作用時間等により豚熱ウイルスに対する消毒効果に差が出るという報告があります。（後日改めて冬季の豚熱ウイルスに対する有効な消毒薬の使い方についてお知らせします）